

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月2日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	469010680
法人名	社会福祉法人 中江報徳園
事業所名	サンシャインひまわり
所在地	鹿児島市伊敷5丁目4-17 (電話) 099-295-0793
自己評価作成日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サンシャインひまわりは平成29年10月1日に開設し、国道3号線沿いの伊敷脇田バス停のすぐ近くで大変わかりやすい場所に立っています。伊敷ひまわりモールとして、1階は交流サロン、介護支援センターひまわり園、ヘルパーステーション、小規模多機能ホームひとまとわり、2階にサンシャインひまわり、3階に住宅型有料老人ホーム知恩があります。

・[知恩報徳]～人は恩の海に住む～高齢者が明るく、豊かな生活を送れるよう、その恩に感謝し社会に貢献する 職員全員がこの理念を念頭に置いて仕事に臨んでいます。地域との交流をはかる為、令和2年まではひまわりカフェ、未来食堂、よかよか体操、地域周辺の清掃、小学生の社会科見学の受け入れなど行っていました。現在はコロナ禍により残念ながら地域との交流が出来ておりませんがコロナ禍が収束し、以前のように地域との交流が出来る日が早く来ることを待ち望んでいます。

・職員も利用者様の生活を第一に考え、安心、安全に暮らせるよう介護支援行っています。また法人内研修や外部研修へ参加し自己研鑽に努めケアの向上を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、「伊敷ひまわりモール」3階建ての2階に位置している。法人ビル内には、小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム、介護支援センター、ヘルパーステーションなどがあり、業務連携や災害時の協力体制が構築されている。1階フロアは、地域交流室として子供食堂や地域サロンに活用され地域に解放されているが、現在は、家族などの面会に使用されている。

法人の基本理念は、法人全体のパンフレットに掲載され事務所の見やすい場所に掲示されている。また、法人の分科会でも話し合いがなされ年間目標である、「挨拶は心をつなぐ愛ことば」やホームの行動目標、「他人事から自分事として接しましょう。」という目標を掲げ毎年度の目標達成に向けて理念を共有し業務に取り組んでいる。職員は、月1回の職員会議で理念について振り返り、年度末にはホームの目標達成状況について話し合っている。

重度化や看取りに関する対応については、契約時に重要事項説明書にて本人、家族に文書にて説明をおこない、看取りについては別途、「看取りに関する指針」にて事業所の方針を共有した上で取り組んでいる。また、意思確認書を取り交わし現時点での本人や家族の意思や希望などを聞き取り確認している。管理者や職員は、早い段階から本人や家族などと話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有して納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。

東ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の掲げた基本理念、年度別目標、事業所の行動目標を事務所に掲げ日々実践行っている	法人の理念があり、法人の年間目標やホームの行動目標があり毎年度前年度の目標を評価し次年度の目標設定をした上で業務に取り組んでいる。今後、管理者はホームの理念についても検討したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為、地域との交流が現在出来ていない	町内会に加入し、「子供110番の家」として登録、子ども食堂として施設を解放したり、サロン活動をしていたがコロナ禍であるため地域との交流を控えている。地域の方々とは電話で、また民生委員などと面談し情報を収集し地域に貢献できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍前は運営推進会議やひまわりカフェなど開催し、気軽に相談できる場を設けていた現在は感染予防対策の為実施出来ていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、運営推進会議は開催出来ないが資料配布にて現状報告し、意見を聞いている	現在は、管理者が事業所の取り組み状況を「現状報告」として書面で情報提供し会議メンバーや関係者などと情報を共有し実践に活かしている。管理者は、今後の会議のあり方について検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新や待機者情報の報告、また生活保護等の手続関係で不明な点など相談し、アドバイスを頂いている	市職員とは、介護保険の手続きなどで面談したり事業所運営に際し指導や助言をもらっている。グループホーム連絡協議会からの研修会案内や市からの研修会には業務変更など柔軟におこない積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで身体拘束の意味を理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる 玄関（出入口）に施錠はしていない。	法人の身体拘束等虐待防止適正化委員会は、3ヶ月毎に開催され施設長をはじめとする各部署の代表などが適正化に向けて話し合っている。スピーチロックが最大の課題と捉え、職員の意識向上を図り弊害がないよう検討している。また、定期的な研修を実施し知識や技術などの研鑽に努め身体拘束や虐待の防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加したり、常日頃言葉遣いや態度など職員同士で注意しあうよう心がけている またニュースや新聞記事などの事例を取り上げ検討し話し合いをしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し学んでいる 必要時は活用できるようにしたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し納得し同意を得ている。また料金改定時には直接説明を行い理解、納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、アンケート用紙を設置し気づきの点があれば意見を頂いている	利用者からは、日々の暮らしの中で意見や要望を聞き取り本人の希望に応えられるよう検討している。家族の意見は、アンケートを実施したり、地域交流室で面談し直接聞くことが多い。また、電話などで状況を伝え意見などをいただくように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案や気づきなどはカンファレンスなどで話し合い、朝礼や申し送りノートなどで情報共有できている	人事考課システムがあり、職員とは年2回面談をおこない、意見、要望などを聞き取っている。ユニット毎の人事異動や法人内の異動があるが、急なシフト変更なども職員間でスムーズにおこなうなど職員の関係性は良い。また、職員の休憩時間を確保したり、資格取得については法人がバックアップしている。人材確保のため夜勤専任の職員を配置している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月の会議などで実績、勤務状況などを把握し職員がやりがいを持ってようコミュニケーションを図ったり環境整備に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部、外部の研修計画を作成し、案内も随時行い、研修を受ける機会を作っている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し研修会に参加している 同業者との交流はしていない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時、安心した生活が送れるように不安や困りごとなどに対応し、利用者様との信頼関係を築けるように努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者様・家族の意見を十分に聞きニーズを引き出すよう努力している</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門機関等の意見も参考にし、支援とサービスを取り入れている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様の個性や生活歴を大切にし、ご自分で出来る事は可能な限り本人にして頂き、出来ない事はサポートし、共に寄り添って暮らしていける信頼関係づくりに努力している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が抱える悩みや心配事も話し合える信頼関係を築けるように面会時や電話などでコミュニケーションをとっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に許可を取ったうえで知人や友人の面会や電話の取次ぎなど行っている	面会の方とは、感染予防をおこない、地域交流室にて面会を実施している。電話や手紙の代読などの支援や訪問美容の利用も受け入れている。携帯電話を本人が管理し、家族や知人などに掛けている。コロナ禍であるため面会に来られる方が少ない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通して入居者同士のふれあいや語らいの場を多くして関係性を深めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族との連絡を取り相談に乗ったり、入所先や入院先への情報提供など行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望に近づけるよう傾聴し、また表情や行動から読み取り職員間で話し合い検討している	自分の意思や思いが言葉にして伝えられない方があり、理解しやすいよう言葉を変えて問いかける場合や、表情やしぐさで判断することがある。利用者の心身状態把握に努めており、カンファレンスなどで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談にて本人や家族、担当ケアマネジャーなどから聞き取り、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの心身の状態を把握し、その度に職員間で情報共有し、記録に残すなどしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、職員間でカンファレンス開き、その方の現状に応じた計画書作成している	本人、家族の望む暮らしに向けた計画書を作成するよう取りくんでおり、本人の楽しみや生きがいを把握して目標設定し、定期的なモニタリングやアセスメントを繰り返しながら、課題を抽出してカンファレンスなどで話し合い目標が達成できるよう支援している。医療ニーズの高い方もあるが、現状に即した介護計画書を作成し見直しも柔軟におこなっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子を観察し記録している 個別記録の情報は職員全員で共有できるようにして介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりに合ったサービスの提供を心掛け、マニュアルにとらわれず柔軟性を持って個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加やボランティアの受け入れなどしていく予定だったがコロナ禍の為ここ2年は出来ていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望される医療を受けられるようにかかりつけ医と連携し受診や訪問診療などに対応している	基本的に主治医は本人、家族が希望するかかりつけ医としているが、訪問診療や家族の協力による外来受診、他科受診があり、訪問歯科との連携があって、必要時に適切な医療を受けられるよう支援している。家族に受診を依頼する際には、連絡票を活用し情報提供するなど家族や医療機関と連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の状態を把握し、体調変化に気を付け早期発見に努め、異常時時は看護職員へ報告・相談している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は入院先の担当者と情報共有し、状態把握や退院に向けての相談などしている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、重度化や終末期に向けた方針の説明を行っている</p>	<p>重度化や看取りに関する対応については、契約時に重要事項説明書にて本人、家族に文書にて説明をおこない、看取りについては別途、「看取りに関する指針」にて事業所の方針を共有した上で取り組んでいる。また、意思確認書を取り交わし、現時点での本人や家族の意思や希望などを聞き取って明文化している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応マニュアルを掲示している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>建物内（モール）での防災訓練を年に2回行っている</p>	<p>事業所は、感染症や非常災害時において、利用者に対する介護や事業運営が継続的に実施されるよう「業務継続計画」を作成し、職員と業務に取り組むといった体制が構築されているが、平時は、年2回防災訓練を実施している。年1回の自主訓練は、地震と火災を想定した昼夜想定訓練である。設備点検を実施、オール電化のため停電対策をおこない食料等の備蓄もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせた丁寧な対応を全職員で心掛けている	職員の言葉使いは、鹿児島弁の丁寧語で、名前を呼ぶ時はさんづけにしている。年1回、法人の接遇マナー研修に参加し日頃から言動に注意し誇りやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望に近づけるよう傾聴し、また表情や行動から読み取り職員間で話し合い検討している		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて休息や散歩などの支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご自分で出来る身だしなみ（髭剃り、ブラッシング）はして頂いている 衣類に関しては清潔な身だしなみ出来るよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みに合わせた調理や盛り付けを行っている 一緒には準備、片付けなど行っていない	法人の栄養士が作成する献立で、職員も参加し法人専用厨房で調理している。職員は、日常会話の中で嗜好などを聞き取り、鍋パーティをしたり、ピザや花見弁当を注文したり、手作りのパフェやケーキを楽しむなどして食卓を囲んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調に合わせた食事量、形態の調節を行っている 水分は家族にも協力をもらい本人の好きな味の物提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きは行っている 介助やセッティングも必要に応じて行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や本人の訴えの際は介助行っている 立位の出来ない方も訴え時はトイレに座り排泄出来ている	毎日の排泄チェックは、居室にチェック表を置いており職員同士情報を共有して排泄のリズムを把握し、夜間はポータブルトイレを併用したり、おむつ対応するなどして排泄の自立支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、医師の指示で下剤を服用しコントロール行っている 水分補給や腹部マッサージなども実施しスムーズな排便が出来るように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴を実施している 曜日や時間などは定めていない	入浴は、本人の希望や必要性に応じて本人の身体機能などを考慮し、入浴の方法を工夫して安心して入浴ができるよう支援している。また、リフト浴や足浴をおこない清潔保持に努め水分補給や保湿対策をおこなうなど皮膚などの全身状態を把握するよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に沿った休息の支援を行い、室温、部屋の明るさ、寝具も本人の希望の物を利用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別にファイルを作成し、マニュアルに沿って服薬介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ出来る事で役割を担い生活している 希望に合わせて書道、工作、塗り絵、脳トレ、散歩などで気分転換を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、コスモス見学などで外出している 天気の良い日は屋上に散歩に行っている	花見の季節には、ドライブがてら花見見物に出かけているが、コロナ禍で日常の外出は控えている。利用者と職員は天候を見ながら屋上に行って散歩をしている。たまに移動販売車を利用し買い物交流もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理が出来る利用者様は散髪などの料金の支払いをしている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時は家族や知人への電話などが出来るよう支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間、居室の整理整頓に努め、季節を感じられる利用者様の作品などを飾っている</p>	<p>対面式キッチンを配し明るく広々とした共有空間である。壁には季節の装飾を施され、利用者の作品などが掲示されている。ソファは、談話室や外の景色が見える場所に置いて、利用者が好きな時に思い思いに過ごせるよう工夫がされている。事務スペースを共有し互いのユニットを往来しているが書類などは個人情報に配慮し整理されている。また浴室は、新たに手すりを設置するなどして環境整備を進めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では気の合う利用者様同士の語らいの場を作るよう心掛けている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族との写真、思い出の品など持ち込んでいるので訪室した時など当時のエピソードを聞いたりしている</p>	<p>エアコン、ベッド、タンス、洗面台が備え付けであるが、利用者の使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしていただくよう支援している。居室の確認がし易いよう表札と飾りを掲示し工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレの場所などわかりやすく表示し状態が変化した時などは職員間で協議し生活しやすい環境づくりを心掛けている</p>	/	/



V アウトカム項目

東ユニット

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない